

研究結果報告書

公益財団法人住友財団のご援助をいただき、わたしは2011年4月から2012年3月の間に「清末日本に留学した留学生たちが日本で受けた理科教育により清末の教育改革を考察する」というテーマを中心に研究を進めた。

本研究では、特に近代西洋文明の東アジア諸国への影響に関する研究の一環として清末中国と明治期の日本における科学と文化の交流を取り上げた。とりわけ、両国における伝統的な学問の転換と西洋文化の受容の全体的な流れ、及び中国から日本へ、日本から中国への影響についての基本的な枠組み、近代西洋の科学技術に対する当時の知識人の思想に対する考察を行った。

主に中国と日本において西洋の文化が受容された過程を、両国の教育制度、歴史背景から総合的に考察した。そして、両国の文化と教育における交流に目を向けながら西洋文化の咀嚼という共通の課題に直面した両国が、それぞれ独自の方法で見いだそうとした答えの一端を明らかにしようと努めた。

特に、西洋近代文明を取り入れるには日本より早かった清末の中国が、20世紀初頭になると、逆に日本を介して西洋文明を受容し、教育の近代化に努めた理由を、その制度的、思想的、社会的背景から分析した。

本研究により、清末留学生派遣事業の経緯と、留学生たちが日本で受けた理科教育の実態を調査し、特に上述した先行研究でほとんど言及されなかった中国の教育制度の改革に対する中国人留学生の貢献を考察した。

東京や京都、大阪、九州などの旧制帝国大学に留学した清末留学生たちが日本に残したオリジナルの自筆入学願書、履歴書、および留学生を受け入れた学校側の文書などの原資料を用いて清末の留学生が受けた理科教育の具体的な状況を明らかにした。

また、20世紀初頭の日本での留学生を受け入れた学校側の責任者に宛てた、清末の中国に渡った日本人教師の手紙、書簡などを収集し、その内容により、清末の留学生派遣事業における日本人教師の役割を究明した。そして、清末留学生たちの日本での留学生生活を詳細に調査し、彼らによる理科教科書の翻訳活動や帰国後の留学生が中国の教育制度の近代化のためにどのような役割を果たしたかについて検討した。

本研究プログラムにより、先行研究では見逃されていたオリジナルの資料を分析し、更に一部未公開の史料を用いて、中国と日本の近代における西洋の科学と文化の受容の様相を比較することにより、その差違が生じた諸要因を探究し、近代の中日科学と文化の交流の歴史に新たな理解をもたらした。

一年の研究を通じて、本研究プログラムの一部研究成果を中国、日本、韓国で開催されたシンポジウムや国際会議に報告し、研究論文を専門雑誌に掲載した。

また、現在、『中国と日本における数学の西洋化とその相互交流と影響』（中国語のタイトル『中日数学西化历程中的相互交流与影响』）著作に取り組んでおり、2013年4月の発行を予定している。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

- 1、「中国人留学生が日本で受けた西洋数学の教育—成城学校での数学の教育を例に」、薩日娜、「第四回数学史と数学教育国際シンポジウム」、2011年5月1日、上海華東師範大学
- 2、「圓容較義研究」、薩日娜、「第13回国際東アジア科学史会議」、2011年7月29日、中国科技大学（合肥市）
- 3、「西洋数学の日本的受容と中国への影響」、薩日娜、「科学史創立記念70周年記念 京都シンポジウム2011」、2011年12月4日、京都大学
- 4、「北京大学派遣初代留学生と中国近代科学の発展」、薩日娜、「北京大学と中国

近代科学の発展」2011年12月20日、北京大学 5、「清末、明治期におけるユークリッド幾何学の伝播」、薩日娜、Templeton「東アジアの科学と宗教」プロジェクト国際ワークショップ、2012年6月23日、韓国ソウル大学
論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等） (日本語)「ユークリッド原論前六巻の最初の日本語訳について」、薩日娜、『哲学科学史論叢』第14号、2012年1月、pp.1-22。
書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等） (中国語)『中国と日本における数学の西洋化とその相互交流と影響』(中国語のタイトル『中日数学西化历程中的相互交流与影响』)、薩日娜、上海交通大学出版社、2013年4月予定